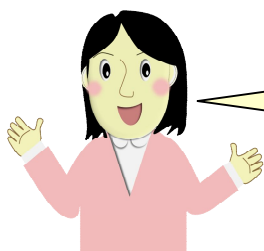


## 2 入門期の指導を充実させる単元指導計画



小学校外国語活動と接続させるための第1学年の4月から7月までの3つの単元の指導計画を示しています。

### 第1学年4月 ～あいさつ、アルファベット（自己紹介1）～

#### <単元の価値と指導上の留意点>

- 生徒は、外国語活動の最後に”I want to be a ~”を使って将来の夢についてスピーチを行っています。しかし、将来つきたい職業について話したりジェスチャーを使ったりして伝えることはできても、書いたり読んだりすることはできません。よって、中学校でののはじめの英語学習で小学校の体験を生かし、新しい集団の中でも「分かった」「分かってもらえた」体験をさせることが大切です。その際、必ずしも文法などの正確さを求めるのではなく、伝える内容や情報量を評価するということで表現しようとする積極性を育てることが大切です。
- アルファベットや身の回りの単語を正確に書くことを中心に学習するため、小学校で行ったゲームや活動を取り入れます。そして、スムーズに学習が行えるようにしながら綴りの正確さについて机間指導を行います。

目標	<b>関心・意欲・態度</b> ：相手を見て大きな声で自己紹介をする。また、名前のアルファベットを相手書き取るペースに合わせて言ったり、聞いて書き取ったりする。さらに、より多くの人に伝わるまで何度も言ったり、聞いて分かった時はうなずくなど反応をしたりする。		
	<b>知識・理解</b> ：アルファベットを正確に読んだり書いたりできる。		
英語ノートとの関連	英語ノート1	Lesson 4	英語ノート2 Lesson 1, 2, 4, 9
	活動・内容	指導上の留意点	評価規準(方法)
第1時	1 指導者の自己紹介を聞く。【聞く】 Hello, everyone. I'm ~. I like ~. I can ~. I want to be a ~. Nice to meet you. <b>英語で自己紹介しよう</b> <ポイント> ①みんなを見渡して ②大きな声で ③聞いて分かった時は、うなずいて 2 自己紹介をする。 【話す・聞く】 Hello, everyone. I'm ~. I like ~. I can ~. I want to be a ~.	○教師がデモンストレーションをする。その際、ある単語が分からない設定でジェスチャーを用いながら自己紹介をしてみせる。 ○めあてとともに「みんなを見渡して、大きな声で、聞いて分かった時は、うなずいて」をポイントとして示す。 ○2グループに分けて活動させてもよい。 ○うまく言えない生徒がいたら、聞き手が Do you like ~? や Can you ~? 「好きな物は？」 「できることは？」と問いかけるようにする。 ○最初の英語の授業なので、自	<b>関・意・態</b> みんなを見て大きな声で自己紹介をする。また、聞いて分かった時はうなずくなどの反応をする。 (相互評価、自己評価)

	Nice to meet you.	己紹介文の習得をねらうのではなく、話す・聞く関心・意欲・態度を高めるようにする。	
第2時	<p>1 聞こえたアルファベットや数字を線でつなぐ。 【聞く】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ものや人の名前を聞いて、アルファベットで書こう</div> <p>○分かった時は反応する</p> <p>2 The Alphabet Song を歌う。【読む】 A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W and X Y Z. Happy. Happy. I'm happy. I can sing my A B C.</p> <p>3 ミッション・ゲームをする。【聞く・書く】 (1) 身の回りの英語を聞いて、アルファベットを書く。 p-e-n / c-a-r-d / p-l-a-y / g-a-m-e / c-a-k-e / l-u-n-c-h / f-l-o-w-e-r / g-u-i-t-a-r (2) 名前のアルファベットを聞いて、書く。 M-i-k-e / B-r-o-w-n / Y-u-k-i / K-u-m-i</p>	<p>○英語ノート2の p.6-7 を模倣し、アルファベットと数字を載せたワークシートを準備しておく。</p> <p>○文字や形は班で確認させてから、全体で確認する。</p> <p>○歌詞の順番に並べたアルファベット・カードを読みながら歌わせる。</p> <p>○慣れたら、バラバラにしたアルファベット・カードを指差しながら歌わせる。</p> <p>○ミッション・ゲームでは、アルファベットを聞いて、その文字を並べ、単語をつくらせる。英語ノートに載っている単語や日常生活で生徒が見たことのあるような単語や教科書の登場人物名を選ぶ。</p> <p>○活動に消極的な生徒でも取り組めるように、答えが分かった児童にすぐに指名するのではなく、班でアルファベットを確認させる。</p> <p>○相手が書き取るペースに合わせてアルファベットを言う。また、相手に伝わるまで何度も言うようにする。</p>	<p><b>関・意・態</b> 単語や人名を聞いて分かった時はうなずくなど反応をする。また、班員に教えるときには、アルファベットを相手が書き取るペースに合わせて言う。さらに、相手に伝わるまで何度も言う。 (ワークシート、自己評価)</p> <p><b>知・理</b> アルファベットを正確に読んだり書いたりできる。 (ワークシート)</p>
第3時	<p>1 The Alphabet Song を歌う。【読む】</p> <p>2 ミッション・ゲームをする。【聞く・書く】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アルファベットで友達の名前を書こう</div> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <p>○より多くの人にきく</p> <p>○分かったときは反応する</p> <p>○聞き手に合わせて言う</p> <p>3 名前のアルファベット・インタビュー活動を行う。 【話す・聞く→書く】 A: Hello. How are you? B: Hello. I'm OK. A: I'm Kenta, K-e-n-t-a. Nice to meet you. B: I'm Yumi, Y-u-m-i. Nice to meet you too.</p>	<p>○アルファベット・カードを指差して読みながら歌わせる。</p> <p>○2回目は、バラバラにしたアルファベット・カードを指差しながら歌わせる。</p> <p>○ミッション・ゲームでは、英語ノートに載っている単語や日常生活で生徒が見たことのあるような単語、人名を選ぶ。</p> <p>○ワークシートを準備する。</p> <p>○相手が書き取るペースに合わせて、名前のアルファベットを言わせるようにする。</p> <p>○はじめ班内で会話し、次に班員と二、三人組をつくり、それを基本として他の二、三人組と会話させる。</p> <p>○JTE は活動に消極的な生徒と会話する程度にし、全体の様相観察をする。</p>	<p><b>関・意・態</b> より多くの人に名前アルファベットを相手が書き取るペースに合わせて言ったり、聞いて書き取ったりする。また、相手に伝わるまで何度も言う。また、聞いて分かった時はうなずくなど反応をする。 (ワークシート、自己評価)</p> <p><b>知・理</b> アルファベットを正確に読んだり書いたりできる。 (ワークシート)</p>

第1学年4月 ～Who Am I? クイズ大会～

<教材の価値と指導上の留意点>

- 本単元は、身の回りの単語を中心に小集団で協力してクイズをつくって出題したり、答えを考えたりする活動を主に行います。小学校で育成された積極性を生かし、単語の綴りや英文の構造を習得させるためには、できるだけ一人一人にクイズのヒント文を考えさせたり、答えを書かせたりするようにします。そのためには、試しの Who Am I? とグループのメンバーを変えて2回程度 Who Am I? を行わせるなど機会を多くもたせるとよいです。
- 生徒の語彙は多くないので、負担を軽減するために、クイズの問題は英語ノートに載っていた単語や身の回りの単語を使用させるようにします。また、ヒント文の英文は既知の have, play, like を中心に書かせるようにします。未知の単語を表す際には、ジェスチャーもしくは部分的に日本語を使用させ、聞いても理解できない英文で書かせることは避けましょう。
- 本単元の Who Am I? は、小集団でのプレゼンテーションの活動でもあるので、めあての提示の際に、小学校で育成された積極性の視点「出題班：聞き手全体を見て、はっきりした声で、解答班：うなずく、首をかしげる」をポイントとして生徒に示しましょう。

目 標	<b>関心・意欲・態度</b> ：より多くのクイズのヒント文を書こうとするとともに、聞き手全体を見て、はっきりした声でクイズを出題したり、ジェスチャーで示したりする。また、問題を聞いて分かった時はうなずいたり、分からない時は首をかしげたりするなどの反応をする。		
	<b>外国語表現の能力</b> ：Who am I? など be 動詞と like, have を正しく使ってクイズのヒント文を書いたり、言ったりするとともに、クイズの答えを言ったり、書いたりすることができる。		
	<b>外国語理解の能力</b> ：Who am I? など be 動詞と like, have が使われたクイズの文を聞いて理解し、答えることができる。		
	<b>知識・理解</b> ：be 動詞、一般動詞の文構造を理解し、身の回りの単語を理解する。		
英語ノートとの関連		英語ノート 1 Lesson 7	
	活動・内容	指導上の留意点	評価規準(方法)
第1時	<p>1 教師が出題して Who Am I? を行う。【聞く】 ALT: I am yellow. I am a fruit. I have 6 letters. Monkeys like me. Who am I? St: You are a banana. ALT: How do you spell? St: b-a-n-a-n-a. ALT: That's right.</p> <p>クイズのヒント文をたくさん作ろう</p> <p>&lt;ポイント&gt; ①うなずく ②首をかしげる</p> <p>2 クイズのヒント文に使い</p>	<p>○英語ノートに載っている単語や外来語を使ってクイズを作り、出題する。</p> <p>○めあてとともに「うなずく、首をかしげる」をポイントとして示す。</p> <p>○学級内で9グループできるように、1班4人前後の小集団を構成する。</p> <p>○各班に解答権が行くように10問程度用意しておく。</p> <p>○教師から各班に2、3題の問題を与え、それらの問題は、英語ノートに載っている単語から選ぶ。</p>	<p><b>関・意・態</b> ヒント文を聞いて分かった時はうなずいたり、分からない時は首をかしげたりするなどの反応をする。 (自己評価)</p> <p><b>理解</b> Who am I? など be 動詞と like, have が使われたヒント文を聞いて答えを日本語で書く</p>

	<p>る文のパターンを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ I am ~.</li> <li>・ I like ~.</li> <li>・ ~ like me.</li> <li>・ I have ~ letters.</li> </ul> <p>3 班でクイズの問題を考える。【書く】</p> <p>(1) 教師から割り当てられた問題に関するヒント文をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ camera, strawberry, calendar</li> </ul> <p>(2) 班独自で問題を考え、そのヒント文をつくる。</p>	<p>○班でクイズのヒント文をつくらせる前に、「～色ですと言いたい時は何と言う？～が好きと言いたい時は何と言う？」などのように、生徒とやりとりしながら使える文のパターンを確認する。</p> <p>○使える文のパターンは英文で板書するが、生徒は英文を書けないので、ヒント文はカタカナでワークシートに書かせるようにする。</p> <p>○クイズの解答では単語の綴りまで言わせるので、ヒント文には単語の文字数を表す文 I have ~ letters.をつくらせる。</p> <p>○聞いて分かる英文、英単語でヒント文を作ること、既有的の語彙で表せない場合はジェスチャーで示すことをルールとし、班で英文やジェスチャーを考えさせる。</p>	<p>ことができる。 (ワークシート)</p>
<p>第2時</p>	<p>1 教師が出題して Who Am I?を行う。【聞く】</p> <p>(1) 教師のクイズを聞く。 (2) クイズのヒント文を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>試しのクイズ大会をして、高得点をあげられるヒント文にしよう</p> </div> <p>2 クイズの答え方や得点方法等のルールについて確認し、be 動詞の文構造を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出題班：正解されるまでに 出題したヒント文の数</li> <li>・ 解答班：答えが分かった時点で 挙手をして、指名され正答した数</li> <li>・ 答え方：Are you ~? Yes, I am. No, I'm not.</li> </ul> <p>3 班でクイズの問題を考える。【書く】</p> <p>(1) 教師から割り当てられた問題に関するヒント文をつくる。 (2) 班独自で問題を考え、そのヒント文を考える。</p>	<p>○英語ノートに載っている単語や外来語を使ってクイズを1、2問出題する。</p> <p>○他班に問題やヒント文が漏れないように、班毎に机を配置させ、小声で打ち合わせをさせる。</p> <p>○ヒント文が聞いて分かる英文になっているかどうかを確認するために、各班の机間指導をする。</p> <p>○できるだけTTで行い、各Groupの会場を別教室にしたり、同じ教室の中でも場所を離して行ったりする。</p> <p>○ヒント文ができれば、単語や英文の読み方を確認させる。</p> <p>○Who Am I?のルールを確認しながら、be 動詞 are / amの説明をする。</p> <p>○全ての班が問題とそのヒント文を試すことができるように、各班順番に2題ずつ出題し、それを回していくようにする。</p> <p>○スムーズに進行できるように進行要領を配付し出題班に進行させる。</p>	<p><b>関・意・態</b> クイズのヒント文を4文以上書く。 (ワークシート)</p> <p><b>表現</b> be 動詞と like, have を正しく使ってクイズのヒント文を書いたり、言ったりするとともに、クイズの答えを言ったり、書いたりすることができる。 (ワークシート、自己評価)</p> <p><b>知・理</b> 身の回りの単語の意味と綴りを覚える。 (ワークシート)</p>

	<p>4 試しの Who Am I?を行う。<b>【話す・聞く】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Group 1: A 班、B 班、C 班</li> <li>Group 2: D 班、E 班、F 班</li> <li>Group 3: G 班、H 班、I 班</li> </ul> <p>5 班毎にクイズの問題やクイズのヒント文の付加修正を行う。<b>【書く】</b></p>	<p>○出題側になった時により多くのヒント文を出し得点を上げられるよう、より正解されにくいヒント文に付加修正させる。</p>	
<p>第3時</p>	<p>1 デモンストレーションをみて、クイズの出題の仕方を確認する。<b>【聞く】</b></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>クイズ大会をして高得点をあげよう</p> </div> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <p>出題班①聞き手全体を見て ②はっきりした声で</p> <p>解答班①うなずく ②首をかしげる</p> <p>2 Who Am I?を行う。<b>【話す・聞く】</b></p> <p>(1) 第1回 Who Am I?を行う。</p> <p>Group 1: A 班、D 班、G 班 Group 2: B 班、E 班、H 班 Group 3: C 班、F 班、I 班</p> <p>A: Question 1. Hint 1. I am white. Hint 2. I am drink. Hint 3. I have 4 letters. Who am I? B: Are you milk? A: Yes, I am.</p> <p>(2) 第2回 Who Am I?を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Group 1: A 班、E 班、I 班</li> <li>Group 2: B 班、G 班、F 班</li> <li>Group 3: C 班、E 班、H 班</li> </ul> <p>3 自己評価をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>評価の視点 <ul style="list-style-type: none"> <li>①聞き手全体を見て</li> <li>②はっきりした声で</li> <li>③うなずき、首をかしげて</li> <li>④クイズのヒント文を正しく伝えられたか</li> </ul> </li> </ul>	<p>○英語ノートに載っている単語や外来語を使ってクイズを出題し、めあてとポイントを説明する。</p> <p>○めあてとともに「出題班：聞き手全体を見て、はっきりした声で、解答班：うなずく、首をかしげる」をポイントとして示す。</p> <p>○全ての班が問題とそのヒント文を試すことができるように、各班順番に2題ずつ出題し、それを回していくようにする。</p> <p>○スムーズに進行できるように、進行要領を配付し、出題班に進行させる。</p> <p>○解答班の全員がクイズの文を聞いて答えを書くことができるようなワークシートを準備する。</p> <p>○めあてやポイントを達成できるように、Who Am I?は対戦する班を変えて2回行う。</p> <p>○自己評価の視点を示す。</p>	<p><b>関・意・態</b> 聞き手全体を見て、はっきりした声でクイズを出題したり、ジェスチャーで示したりする。また、問題を聞いて分かった時はうなずき、分からない時は首をかしげるなどの反応をする。 (自己評価)</p> <p><b>表現</b> be動詞と like, have を正しく使ってクイズのヒント文を言ったりするとともに、クイズの答えを言ったり、書いたりすることができる。 (ワークシート、自己評価)</p> <p><b>理解</b> be動詞と like, have が使われたクイズの文を聞いて答えを書くことができる。 (ワークシート)</p>

<単元の価値と指導上の留意点>

- 生徒は4月に好きなことや将来の夢について自己紹介スピーチを行っています。しかし、それは正確にスピーチ文を書かせたり、読んで理解させたりしたわけではありません。本単元では、4月に行ったスピーチに内容を付加する繰り返しの活動にすることで、綴りや語順など文法的に英文を正確に表現させ、be動詞や一般動詞、その疑問文を定着させることをねらいとします。
- 第1学年の教科書には、自己紹介の題材が載っています。その学習の際、教科書の本文のみにとらわれるのではなく、様々な自己紹介を聞かせたり、読ませたりしながらbe動詞や一般動詞、その疑問文を習得させましょう。
- 自己紹介文については、毎時間の積み重ねとして、文構造の学習の後にその文法を使って自己紹介文2文程度付加させるようにし、常に単元末の発表活動を意識させましょう。

目標	<p><b>関心・意欲・態度</b>：自分の好きなことや持ち物についてより多くの内容を書くとともに、相手を見て大きな声で自己紹介をする。また、相手に伝わるまで何度も言う。さらに、聞いて分かった時はうなずくなどの反応をする。</p> <p><b>外国語表現の能力</b>：be動詞と like, have, play を正しく使って好きなことや持ち物などの自己紹介文を書いたり、言ったりすることができる。</p> <p><b>外国語理解の能力</b>：be動詞と like, have, play が使われた自己紹介の英文を聞いたり読んだりして理解することができる。</p> <p><b>知識・理解</b>：be動詞、一般動詞とその疑問文の文構造を理解することができる。</p>		
	英語ノートとの関連	英語ノート1 Lesson 4	
	活動・内容	指導上の留意点	評価規準(方法)
第1時	<p>1 自己紹介を聞いたり読んだりする。【聞く・読む】</p> <p>・ Hello, everyone. I'm ~.</p> <p>I speak Chinese and English. I like Japanese food. Nice to meet you.</p> <p><b>like, have を使って自己紹介を書こう</b></p> <p>2 自己紹介で使われた単語の意味を確認し、一般動詞の文構造についての説明を聞く。</p> <p>・ I like Japanese food.</p> <p>I speak Chinese and English.</p> <p>3 自己紹介で使われた単語の綴りを書く練習をし、like, have などを使って自己紹介文を書く。【書く】</p> <p>・ I like soccer. I have my soccer ball.</p>	<p>○教科書の本文を含め、数種類の自己紹介文を聞かせたり、読ませたりする。その際、「話す言語は？好きな物は？」など内容に関する Q-A を行わせる。</p> <p>○フラッシュカードを使って単語の発音練習をさせ、その後、意味を確認する。</p> <p>○一般動詞の文構造は、学習プリントに簡潔に示し、説明する。その際、読んだり書き写したりすることを基本とした簡単な文法問題を載せておき、説明後に問題を解かせ、その理解を確認する。</p> <p>○生徒によって異なる目的語の部分の例を板書して示す。</p> <p>○綴りの練習をさせるためのワークシートを準備する。授業では練習の一部分を行わせる。</p>	<p><b>関・意・態</b> 自己紹介を聞いて分かった時はうなずくなどの反応をする。また、自分の好きなことや持ち物について2文以上書く。(自己評価)</p> <p><b>知・理</b> 一般動詞の文構造を理解することができる。(学習プリント)</p>

第2時	<p>1 自己紹介を聞いたり読んだりする。【聞く・読む】</p> <p>・ Hello, everyone. I'm ~. I'm from Canada. It's a beautiful country. I speak French and English. I'm a college student. I like hockey. Nice to meet you.</p> <p>自己紹介に出身を加えよう</p> <p>2 自己紹介で使われた単語の意味を確認し、be 動詞の文構造についての説明を聞く。</p> <p>・ I'm from Canada. It's a beautiful country. I'm a college student.</p> <p>3 自己紹介で使われた単語の綴りを書く練習をし、be 動詞を使い自己紹介文を書く。【書く】</p> <p>・ I'm from ~, Fukuoka. I am a junior high school student.</p>	<p>○自己紹介文のディクテーションをさせ、その後、その英文を読ませる。その際、「出身は？どんな所？話す言語は？学校は？好きな物は？」などの Q-A を行わせる。</p> <p>○フラッシュカードを使って単語の発音練習をさせ、その後、意味を確認する。</p> <p>○be 動詞の文構造についての説明は、学習プリントに簡潔に示した上で説明する。その際、読んだり書き写したりすることを基本とした簡単な文法問題を載せておき、説明後に問題を解かせ、その理解を確認する。</p> <p>○生徒によって異なる部分の例を板書して示す。</p> <p>○綴りの練習をさせるためのワークシートを準備する。授業では練習の一部を行わせる。</p>	<p><b>関・意・態</b> 自分の好きなことや持ち物について2文以上書く。(ワークシート)</p> <p><b>表現</b> be 動詞と like, have, play を正しく使って好きなことや持ち物などの自己紹介文を書くことができる。(ワークシート)</p> <p><b>知・理</b> be 動詞、一般動詞の文構造を理解することができる。(学習プリント)</p>
第3時	<p>1 自己紹介に関する内容の対話を聞いたり読んだりする。【聞く・読む】</p> <p>A: My name is ... I'm from ... It's a beautiful country. I (speak) Chinese and English. I'm a college (student) in Japan.</p> <p>B: What do you study in Japan?</p> <p>A: I study science.</p> <p>聞き手を引きつけるために自己紹介に問いかけを入れよう</p> <p>2 使われた単語の意味を確認し、一般動詞の疑問文の文構造について説明を聞く。</p> <p>・ What do you study? Do you practice hockey? Yes, I do. / No, I don't.</p> <p>3 使われた単語の綴りを書く練習をし、Do you ~? など聞き手への問いかけを自己紹介文に加える。【書く】</p> <p>・ I like soccer. Do you like soccer?</p>	<p>○教科書の本文の自己紹介文を聞かせる。その際、ディクテーションを取り入れる。その後、英文を読ませる。その際、「出身は？話す言語は？好きな物は？」など内容に関する Q-A を行わせる。</p> <p>○フラッシュカードを使って単語の発音練習をさせ、その後、意味を確認する。</p> <p>○一般動詞の疑問文の文構造についての説明は、学習プリントに簡潔に示した上で説明する。その際、読んだり書き写したりすることを基本とした簡単な文法問題を載せておき、説明後に問題を解かせ、その理解を確認する。</p> <p>○生徒によって異なる目的語の部分の例を板書して示す。</p> <p>○綴りの練習をさせるためのワークシートを準備する。授業では練習の一部を行わせる。</p>	<p><b>関・意・態</b> 自分の好きなことや持ち物について2文以上書く。(ワークシート)</p> <p><b>表現</b> 一般動詞とその疑問文を正しく使って好きなことや持ち物などの自己紹介文を書くことができる。(ワークシート)</p> <p><b>知・理</b> 一般動詞の文構造を理解することができる。(学習プリント)</p>
第4時	<p>1 自己紹介文の例文を聞き、相互評価の仕方を知る。【読む】</p>	<p>○自己紹介文の例文のディクテーションをさせ、その後、その英文を読ませる。</p> <p>○これまでに書いた自己紹介文について「文法の正確さ、</p>	<p><b>表現</b> be 動詞と like, have, play を正しく使って好きなことや持</p>

	<p>(1) 自己紹介文の例文のディクテーションをする。</p> <p>(2) 相互評価の仕方を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自己紹介を整え、発音できるようになる</div> <p>2 自己紹介の英文を完成させる。【読む・書く】</p> <p>(1) これまでに書いた自己紹介文の内容と文法について相互評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ be 動詞、一般動詞の正確さ</li> <li>・ 内容のつながり</li> </ul> <p>(2) 相互評価を受け、英文を付加修正する。</p> <p>3 自己紹介文を班で音読練習する。【読む】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発音確認のための通しの音読</li> <li>・ Read and Look-up の手法での音読</li> </ul>	<p>内容のつながり」を視点を班内で相互評価及び綴りや文法間違いの訂正をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 聞いて分かる英文を書くこと、未習語を使う場合はジェスチャーとともに表現するようにする。</li> <li>○ 音読練習は、例文を基にした一斉音読練習の後、班内で協力して Read and Look-up の手法で行わせる。</li> <li>○ 未習語使用の際のジェスチャーが適切かどうか班内で評価させる。</li> </ul>	<p>ち物などの自己紹介文を書くことができる。(ワークシート)</p>
<p>第5時</p>	<p>1 自己紹介モデルを見て、めあてとポイントを確認する。</p> <p>【聞く】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小集団で自己紹介をし、自分と趣味や持っているものが同じ人を探そう</div> <p>&lt;ポイント&gt;</p> <p>話し手①聞き手全体を見て ②はっきりした声で</p> <p>聞き手①うなづく ②首をかしげる</p> <p>2 自己紹介の発表を小集団で行う。【話す・聞く】</p> <p>Hello, everyone. I'm ~. I'm from Onojo, Fukuoka. It's a beautiful city. I'm a junior high school student. I like soccer. I have my soccer ball. Do you like soccer? Nice to meet you.</p> <p>3 自己紹介の英文を小集団で輪読する。【読む】</p> <p>4 自己評価をする。</p> <p>&lt;評価の視点&gt;</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ be 動詞と like, have, play を正しく使って</li> <li>○ 聞き手全体を見て</li> <li>○ はっきりした声で</li> <li>○ うなづくいたり、首をかしげたりなど反応をして</li> </ul> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 話し手のポイントがわかるようにモデルを示す。</li> <li>○ めあてとともに「話し手：聞き手全体を見て、はっきりした声で、聞き手：うなづく、首をかしげる」をポイントとして示す。</li> <li>○ 発表は班と異なるメンバーで構成した6人前後の小集団で行わせる。</li> <li>○ 聞き手は自己紹介を聞いて、自分と同じ趣味や持ち物の人を記録しておくようにする。</li> <li>○ 輪読では、班や発表の小集団とは異なるメンバーで構成した6人前後の小集団で行わせる。その際、付箋に感想を書いて貼らせるようにする。</li> <li>○ 左の評価の視点で発表の自己評価をさせる。また、他者の感想を受け、英文の自己評価をさせる。</li> </ul>	<p><b>関・意・態</b> 相手を見て大きな声で自己紹介をする。また、相手に伝わるまで何度も言う。さらに、聞いて分かった時はうなづくなどの反応をする。(自己評価)</p> <p><b>表現</b> 自己紹介の文を正しく発音して発表することができる。(ワークシート)</p> <p><b>理解</b> be 動詞と like, have, play が使われた自己紹介の英文を聞いたり読んだりして理解することができる。(ワークシート)</p>